みんなと倶楽部

My hometown Kaketsuka

MINNATO CLUB 掛塚 ESTD.2016

第16号

P1 伊豆石の蔵や水路跡
P2-3 掛塚の匠 いつけたに～
P4 ちょっとい～け？ 鈴木克巳さん（大当町）

伊豆石の蔵や水路跡…掛塚の魅力を見直そう

昨年11月23日（日）、NPO日本都市計画家協会静岡支部と私たち「みんなと倶楽部 掛塚」がタイアップした「掛塚の魅力を見直そう」という企画を実施。実際に掛塚の町を歩く体験を通じて見たこと、聞いたこと、感じたことなどを話し合うワークショップや懇親会を通じて交流を深め、掛塚の魅力を再認識する機会を得ることができました。

NPO日本都市計画家協会とは、地域に関する調査・研究を行い、専門家として地域づくりへの支援をする団体です。

掛塚と言えばかつては「遠州の小江戸」、湊町として栄えた地域。そして、豪華な屋台が練り歩く「掛塚まつり」など、私たちとしては地域の魅力は十分に承知しているはず。しかし、地域外の人たち、地域づくりの専門家から見れば、また違った掛塚が見えて来ます。それは、決して良い面だけではなく、もう少しこうした方が良いとのアドバイスにも。これまで地域住民としては当たり前と考えて来た新たな魅力もありましたが、何よりも、私たちが今、目指さなければならないのは何なのか？それを地域の内外へどう発信すべきか？この課題解決への大きなヒントをいただけたような気がしました。

参加者したのは、私たち「みんなと倶楽部 掛塚」会員を含めると40人近くとなり、先ずは2班に分かれて掛塚の「町あるき」に出かけました。私たちの班は旧津倉家を出発し、「平野又十郎生家」として知られる林家へと向かいました。林家の見どころは敷地をグルリと取り囲んだ伊豆石の塀。縞模様が浮き出た美しい伊豆石は、江戸へ木材を運んだ船が、帰りに船のバラストとして伊豆から積み帰った、掛塚湊の歴史を物語る貴重な土木遺産。掛塚には伊豆石の蔵もたくさん残されていますが、果たして、伊豆半島の人たちが、遠州の掛塚にこれほどたくさんの伊豆石が運ばれ、富の象徴として大切にされていることを知っているのでしょうか？そう考えれば、町を歩けば伊豆石と出会う掛塚を、もっともっと地域住民も再認識する必要があります。

そして、次に気づかされたのは掛塚の各所に残る水路跡。掛塚の町を歩いてみると、道路が直線ではなく、ゆるやかなカーブを描いているのに気づきます。そして、道路脇や家と家との境などに側溝のようなものが。中には、道路の真ん中にコンクリート蓋をされた排水溝のようなものも。

実は、これらは排水溝ではなく、かつて小型の船が材木を貯木場だった池に運んだりした「水の路」、水路跡だったのです。掛塚湊として栄えた町には、派川を経由して天竜川とつながる水路が縦横に張り巡らされていました。

「まち歩き」から戻った参加者たちは、4グループに分かれ、実際に歩いて見たこと、聞いたこと、体験したことをもとに、掛塚の魅力や課題などについて意見を出し合いました。意見のまとめはグルーピングの手法。次々と出る意見をポストイットカードに書き込んでは紙に貼り、議論を通して貼ったカードをグループ化していきます。私たちのグループでは、「祭りが心の中心」「東西文化の交流地」などの魅力に対し、「駐車場不足」「案内看板の整備」「活動への若者の参加」などの課題が集約されました。

どのグループの発表にも、「なるほど」とうなづくことが満載。ガイドなしでも掛塚の町を楽しく歩ける方法の工夫、私たち「みんなと倶楽部 掛塚」の活動も地域内だけにとどまらず、他の地域との交流や協力をさらに進めることの大切さなど、アドバイスをたくさんいただきました。

さらに、私たちの中でも持ち上がっている旧掛塚郵便局の活用促進。絵画や書などの展示会、趣味のサークルの発表会、おしゃべりが楽しめるカフェの開店等、食べたり飲んだりしながらの会話の中で、具体的な提案がなされ、今後の活動に活かしていかなければとの決意を新たにすることができました。

記事 斉藤朋之

ちょっとい～け？

温故知新！ 掛塚を知る「に～さ・ね～さ」の方々に、掛塚生まれの主婦二人組（のりこ&さゆり）がインタビュー。今回は、大当町の鈴木克巳さんにお話を聞いてきました。。

鈴木克巳さん 76歳（大当町）

刺繍職人だったお父様についてお話を聞かせてください

～父 新吉さん（大正五年生まれ 享年九十七歳）～

親父は大正五年一月二六日生まれで生まれは渥美郡田原町なんだよ。田原市の浦町で刺繍をする女の人がいて、学校を出てからその人に習ったのが一番最初。その後、東京の白木屋で修行をして羽織の紋や相撲取りの化粧まわしの刺繍もしてただって。

独り立ちした頃に戦争でね・・・。戦争中は豊川の海軍工廠に勤めていてそこで終戦をむかえてさ、豊川から大八車で母親の実家がある掛塚へきただよね。

掛塚は田舎で普段は刺繍の仕事はないもんで、天竜川の河原で砂利とか砂を振るい分けるのを商売にしてた時もあったよ。昔は機械なんてないもんでスコップですくって手で振るっただよ。それから新町の関さんに勤めたり、横町の鈴木さんと商売をやったりしたけど独立して。小池工務店の小池清さん（新吉さんの義弟で宮大工）が住宅もやってたもんで左官仕事とか外仕事をやってただよ。

昔ここらでは法被に刺繍したの知ってる？昔はそろいの法被がなかったからね、みんな着流しで刺繍をしてかっこつけただよ。親父が刺繍した法被が家にもしまってあるよ。

新吉さんが使用していた刺繍針と糸を見せていただきました

糸を買ってた東京の千代田屋も、今はもう無くなったけどね。束になった糸を買って、それを使いやすいように巻きなおして細い糸を撚って（よって）いくだよ。だもんでまず最初に太さを決めて糸を作るら。そしたら大きな木の枠に布をはめて撚った刺繍糸を細い糸でかがっていくだよ。（生地の）上から下から縫っていくでしょ？上からの時はいいよ、でも下からの時には思うよう（な場所）に針が出ないでしょ？でも親父が全盛期の頃には目透かしでまるで見えているように同じところに針が出ていたよ。

「寿」の文字の作品をよーく見せていただきました

同じ色の糸を使っているけど模様が光の加減で変わるように縫う向きを変えているだよ。

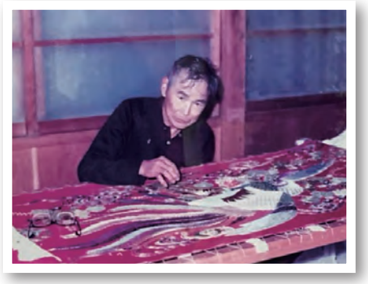
貴船神社にある「三つ巴」の刺繍と、祭りの時の社名旗の「貴船神社」の文字も親父の刺繍だから今度行ったら見てみな。

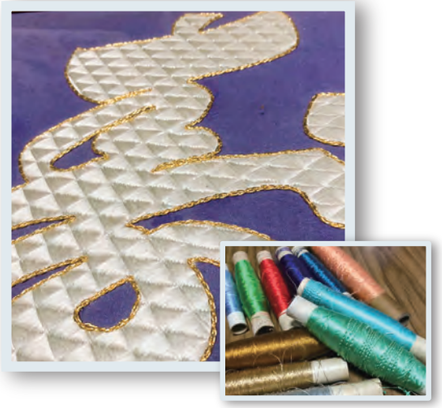
刺繍をしている様子を覚えていますか？

そんなに喋る人じゃなかったし、もくもくとやっていたよ。八十八歳までやってたけど老眼だったもんで縫う時は眼鏡をとってね、それでもよく見えてたよね。（笑）

ずうずうしいお願いをし、ほかの作品も見せていただきました。これがまたすごい!!

砂町の天幕の虎、大当の天幕のウサギ、そして鳳凰。大迫力の作品で私たち二人は終始「わぁ～、すごーい、きれい、実際に作業を見てみたかった～、弟子になりたかった～」などと大騒ぎでした。





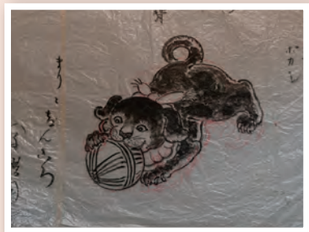
今回も急な依頼にも関わらず何でも「見たい」「聞きたい」という私たちの好奇心のために奔走してくださった克巳さん。新吉さんの作品調査はまだ続いていますのでいつか大勢の人に見ていただく機会が作れたらと思います。だって本当に素敵な作品なんですから。ご協力いただいた皆さんに感謝です！

［取材・記事 のりこ&さゆり］

みんなと倶楽部 My hometown Kaketsuka
MINNATO CLUB 掛塚 ESTD.2016
●会　長　池田藤平
●事務局　名倉慎一郎、大沢利行
●編　集　靄田茂巳、山内紀子、鈴木小百合 須田明広、長谷川 智
お問い合せ
ご興味のある方は下記までご連絡ください！
☎0538-66-4775（名倉）

掛塚の匠　みつけたに～

このコーナーでは掛塚でかつて活躍された、また現役で活躍されている匠を調査します。
今回の取材では鈴木新吉さん（大当町）の「目を奪われる」刺繍作品の数々に出逢うことができました。その作品の下絵は義父であり屋台職人として活躍された小池佐太郎さんが描いたものでした。今回はその二人の匠の作品をごく一部ではありますがご紹介させていただきます。



これは佐太兄（佐太郎さん）が描いて新吉さんが刺繍をしただよ。
もう 65 年も前の事で、当時のひと月分の給料の程の金額だった。
昔は若い衆が競って法被をこさえたけど、言っちゃなんだけど俺のが一番良かっただで。（笑）みんなびっくりしただよ、手縫いだでね。
俺が死んだら棺桶に入れてもらうだよ。（笑）
大当町 篠島昭治さん

法被は大当町の平野さんと篠島さんよりご主人が着ていた法被をお借りしました。
昔は平若っていうただお祭りに出て騒いでいればいいという役があったの。これはその頃に着て遊んでいたんだと思うの。（笑）もう処分してもいいかなって思っていたんだけど刺繍がきれいだからねぇ・・。これで少し日の目を見ました。
大当町 平野芳子さん

INFORMATION お知らせ

掛塚の古い写真を募集しています。

今後のイベントで、古写真展を企画しています。
写真の提供にご協力いただける方はご連絡ください。
お借りした写真はコピーした後、お返しいたします。

☎0538-66-4775（名倉）

大当町の天幕のレプリカは、まずその大きさに圧倒されました。手縫いの刺繍はその絵柄によって糸の太さや縫い方も違います。それによって自然な毛並みのウサギや高価な金糸を贅沢に使ったまん丸の月や鳳凰などが見事に表現されています。ウサギの餅つきの刺繍は88歳の時に作られたんだそうです。これには本当に驚いてしまいました。

● 新吉さんの掛塚屋台天幕修理履歴

昭和 62 年 6 月	掛塚砂町
昭和 62 年 10 月	掛塚本町
平成 2 年 5 月	掛塚大当町
平成 5 年 10 月	掛塚蟹町

法事で仏壇に使用している垂幕・・・実物は写真よりも上部の無地の部分が長くその無地の部分に霊供膳を供え、刺繍部分は下に垂らして使用するそうです。
法事のたびに自分の刺繍が飾られて新吉さんも喜んでいますよね。

貴船神社に奉納された三つ巴の神紋と祭典の際にお渡りの先頭を行く社名旗の神紋と文字の刺繍。（社名旗の文字は当時の町長である池田正太郎さんの字体）どちらも高価な金糸がふんだんに使われていますね。

小池佐太郎さんは掛塚を始め各地の屋台を手掛けた宮大工。手先の器用な佐太郎さんが描いた繊細な絵は彫り物や着物、帯、法被などの刺繍の下絵に多く使われていました。そのごく一部をご紹介します。